

特許紹介

第27巻第8號 昭和16年8月

彎曲氣囊屋根

(特許第142387號 發明者 伊藤重雄) (特許権者) 藤本道三郎

空気を膨入した筒状の布製氣囊(I)の多數を、其の兩端面及び兩側縁で連結し全體を

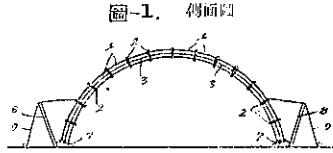


圖-1. 側面図

曲面に彎曲せしめて屋根を構成せしめたもので(圖-1)、組立解體が容易で而も任意の大きいものを建設し得るが故に、移動用格納庫、倉庫等に適當する。

合成柱

(特許第142458號 發明者 赤坂健一) (特許権者)

細くて單一では使用に耐へない部材を組合せて所要の太さの合成柱を形成せしめるものであるが、その方法は各部材(1)に接合面に突條(3)及び凹溝(2)及び切欠(4)を設けるもので、之等を互に嵌合せしめ中央に生ずる切欠(4)による貫通孔内に軸材(5)を打込むのである(圖-2)。斯くて各部材は中心軸材(5)の存在により外部より撞撃をなされたる如き作用を受けて弛みを生ぜない特徴がある。

圖-2.



管接手

(特許第142502號 發明者 中西角太郎) (特許権者)

圖-3及4参照。切管に對する管接手で、接合作用容易で、又2個の管が1直線をなす場合も少しく角度を有する場合も差支へなく其の接合を圓り得るやう設計したものである。7₁, 7₂, 7₃は弧狀壓定片で、之を覆管(2)の突出部(5)に管(1)の軸線と平行に螺裝せる緊締螺子(S₁)(S₂)(S₃)の先端に各別に緩着するもので、管(1)の傾きに應じて各螺子を緊締すれば、之に所屬する各弧狀壓定片を介しパツキング環(6)を漸變的に斜めに壓し得るのである。

圖-3. 精確正面圖

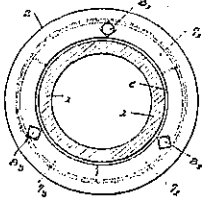
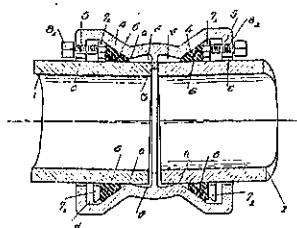


圖-4. 少しく傾斜して接合せる状態を示す



セメントの凝結強度促進劑の製造法

(特許第142639號 發明者 坂井三六, 松波三助) (特許権者)

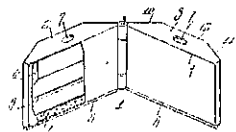
オイレン酸、リチノール酸の如き高級不飽和脂肪酸を取り之に計量量の稍過量の濃硫酸を加へ加熱反應せしめた後之を適量の水に希釈し加温しつゝ之に必要量の密陀僧を加へて中和し乾燥粉末となす方法である。

乾船渠用浮戸扉

(特許第142692號 發明者 吉村安雄)

上より下に向ひ水槽空氣槽重錘室を内部に作った2個の扉浮面(2)(3)の1側端縁を水密に連結して擴開又は閉鎖し得るやうにし、閉鎖した時は全體が舟形狀を呈するやうにして、收藏に便ならしめ且つ曳航に際し水の抵抗の減少を圖つた(圖-5)。

圖-5.

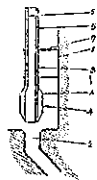


排泥装置

(特許第142755號 發明者 村上龍郎) (特許権者)

取水所又は貯水槽等の堰堤基部に設けるもので、圖-6に示す如く、垂直圓管(5)を上下兩端開放せしめ、其の下端外周には氣密的に中空筒體(4)を接着し、之を以て弁體と成し、堰堤側面に植設した支持棒(7)に依り此の弁體を支持せしめる。尙上記中空筒體(4)は通水管(5)と連通せしめる。今通水管の上端をポンプに連結し上方から中空筒體(4)中に注水して之を充満せしめる時は自重に依り垂直に降下して泥吐口(2)を閉塞し、逆にポンプに依り筒體(4)内の水を排出すれば弁體は浮力に依り垂直に上昇す。而して、通常閉口時に於ては弁體直下に真空部を生ずる虞があるが、本装置は垂直圓管(3)が上下兩端を開放せるが故に、斯る虞がない。又閉塞時に於ては、垂直圓管内には既に水槽又は貯水池水準と同一なる水準を有する水柱を以て充満せられてゐるが故に、サーヂタンクの如き作用を呈して前同様真空部の發生を除去し得るのである。

圖-6.



地下容槽築造法

(特許第142705號 發明者 加藤三知郎) (特許権者)

地下湧水激しき個所に施して便なる方法である。(I)先づ開氣潜函工法に依り排水作業を行ひつゝ大型井筒

枠(1)を沈下せしめ、(II) 其底部の略中央に更に小型井筒枠(4)を沈下せしめ其の内部に排水管を挿入して地下湧水の排水作業を継続し(圖-7)、(III) 中央部を残して底壁のコンクリート打を爲し大小井筒枠を接續せしめ、(IV) 次いで小型枠の部分に底壁より導杆(8)を樹立して排水作業を中止し井筒内に地下湧水を充満せしめ、(V) 然る後導杆に沿つてコンクリート容器(9)を昇降せしめて(圖-8)小型枠内を填充し底壁を完成し、(VI) 最後に大型枠内の排水を行ひ地下槽を完成するのである。

圖-7.

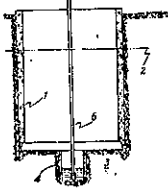
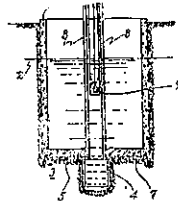


圖-8.



急速鑿進鑽管に於ける加速聯動機構

(特許第 142738 號 發明者)
(特許權者) 藤田 茂

ボーリングロッドには緩慢なる回轉を與へ、掘鑿管のみに急回轉を與へて截斷力を著しく大ならしめるやうに、加速聯動機構を設けたものである。

大型 潜 函

(特許第 142600 號 發明者)
(特許權者) 藤 邦一

大型潜函は沈下途中に於て不同沈下の爲壁體に龜裂を生ずる虞がある。本潜函は斯る缺點を除去する爲に、沈下開始前に豫め壁體の1部を分離する裂斷溝(3)を設け、且つ其の外壁面に沿つて防水板(3)を接着し、之を壁の一方より曲折せる延長部に依り挾持したもので、之に依り龜裂を防止すると共に此の部分よりの浸水をも阻止するのである(圖-9, 10)。

圖-9. 平面圖

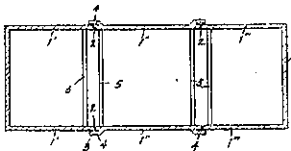
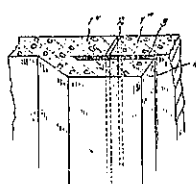


圖-10. 要部放大圖



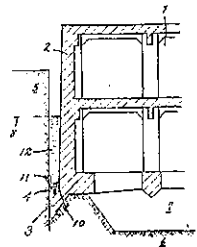
地下構築物の地下湧水防止法

(特許第 142501 號 發明者)
(特許權者) 藤 邦一

水平段階部を有する特殊構造の地下構築物(圖-11 参照)に於ては、沈下に伴ひ形成せられる周囲の空隙(12)内の湧水が構築物内に流入し、爲に双型先端部附近の地

盤を軟弱化し急激沈下又は不等沈下を起す虞があるが、本發明は次の如く簡單なる手段に依り前記湧水を防止せしめたものである。即ち段階状部に層積せる防水性彈性板(10)を定着し、其の1端を隣接地盤に沿ひ上向に折曲げるのである。但しこの方法は、湧水が甚しい場合には餘りその効果を期待し得ない感があるが、次に掲げる特許發明は斯る場合にも有效であると考へられる。

圖-11.

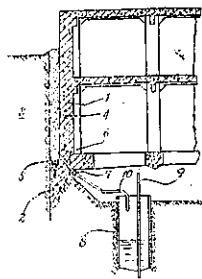


地中に沈下せしむべき潜函

(特許第 142802 號 發明者)
(特許權者) 藤 邦一

圖-12. 潜函外壁面と隣接地盤との間に沈下に伴ひ生ずる空隙(4)の下端より、潜函壁を貫通して潜函内に連通する通水管を設け、空隙内の水を該管を通じて潜函内に(例へば水抜井戸8)排出し得るやうにしたもので、之に依り空隙内の甚しき湧水に依る溜りに排水を與へ以て双型附近の地盤流出を防止する事が出来る。又空隙内に沈下に伴ひ砂を充填し空隙上部より水締を行ふ場合には、弁(7)を設けて、排水と注水とを交互に反覆施行する事に依りその水締を有效ならしめる事も出来る。

圖-12.



地下建築物構築法

(特許第 142838 號 發明者 大内=男)
(特許權者) 竹中工務局

地下建築物の大部分を地上に於て豫め構築し其の底部地盤を掘下げて之を地中所定位置迄沈下せしむる工法に於ける1改良方法に關するもの。

遠心力利用に依るコンクリート管製造法

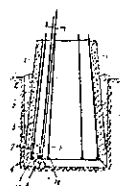
(特許第 142860 號 發明者)
(特許權者) 濱川三郎

(附) 登録實用新案 基礎井筒

(特許第 25079 公 昭和 15 年第 14000 號)
(特許權者) 藤 邦一

圖-13. 基礎井筒の双型附近に多數の網の下端を金具に依り定着し、之をガイドとしてグラブバケットを摺動自在に挿通したもので、双型附近の掘鑿を有效且つ簡易化したもの。

圖-13.



金網蛇籠

(登録第 29701 號 公許第 15 年第 16308 號)
(考案者 (権利者) 吉田長作)

圖-14.

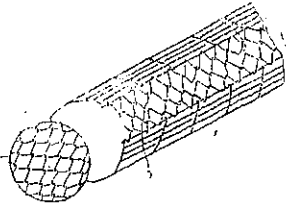


圖-14。大部分を格子金網 (1) にて構成し残部を螺旋金網 (2) に依り構成したもので、格子網に依り輸金を不要ならしめ、螺旋網に依り填石作業を容易ならしめたもの。

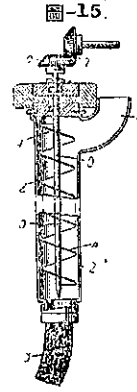
コンクリートミクサー

(登録第 29 973 號 公許第 15 年第 16235 號)
(考案者 (権利者) 相 田 清 誠)

コンクリート打込みに使用する混和充填機

(登録第 19 851 號 公許第 15 年第 1-9-5 號)
(考案者 (権利者) 塚口金太郎)

圖-15。投入口 (1) を有する筒體 (2) の下端に可撓管を着脱自在に設け、筒體內に移送翼を有する回動杆 (5) を設置したもので、移送翼を回動して混和しつゝコンクリートを高所より目的地に移送するもの。



治水護岸用鐵線籠

(登録第 59618 號 公許第 15 年第 1462 號)
(考案者 (権利者) 森 寛)

圖-16。輪金 (1) (1') を竹製とし兩者を木杆 (3) を以て挟支し他を金網を以て圖示の如く構成したもの。

圖-16.

